

# IX 施 設



# 1 飛行場施設取得の推移

年度	飛行場名 (取得年月)	沿 革	施 設 の 規 模
28	館 山 (28.9)	5年6月 旧館山海軍航空隊開隊 20年8月 米第8軍進駐 23年6月 県立安房水産高校として一部使用 28年9月 館山航空隊開隊	28,220 m <sup>2</sup> (建物) 985,265 m <sup>2</sup> (土地)
	鹿 屋 (28.12)	11年4月 旧鹿屋海軍航空隊開隊 20年9月 米第6軍進駐 25年12月 警察予備隊鹿屋駐とん部隊開隊 28年12月 警備隊鹿屋航空隊開隊	75,879 m <sup>2</sup> 3,740,021 m <sup>2</sup>
31	大 村 (31.12)	大 12年12月 旧大村海軍航空隊開隊 昭 20年11月 駐留軍接收 31年12月 大村航空隊開隊	22,377 m <sup>2</sup> 270,090 m <sup>2</sup>
	八 戸 (32.3)	16年1月 旧陸軍第7教育航空隊開隊 20年9月 米第8軍進駐 31年5月 日本に返還 32年3月 八戸航空隊開隊	70,916 m <sup>2</sup> 2,411,002 m <sup>2</sup>
32	徳 島 (32.)	旧海軍徳島航空隊跡地で、戦後、開拓農地として民間に払い下げ。 32年、民有地 610,280 m <sup>2</sup> を購入して徳島航空隊を開隊。	32,607 m <sup>2</sup> 1,023,427 m <sup>2</sup>
35	下 総 (35.6)	20年4月 旧陸軍飛行場として発足 20年9月 米第8軍進駐 34年9月 白井術科教育隊開隊、米軍と共同使用 35年6月 米軍から返還	104,302 m <sup>2</sup> 2,379,166 m <sup>2</sup>
36	大 湊 (36.4)	8年11月 旧大湊海軍航空隊開隊 31年5月 大湊補給所地区に大湊航空隊開隊 36年4月 米軍から返還後、現在地に移転	24,292 m <sup>2</sup> 1,425,425 m <sup>2</sup>
	岩 国 (36.9)	15年7月 旧岩国海軍航空隊開隊 20年8月 英連邦軍進駐 29年10月 米海軍航空基地となる 36年9月 教空団司令部、岩国教育航空群開隊	28,615 m <sup>2</sup> 32,839 m <sup>2</sup>
37	小 松 島 (37.10)	旧小松島海軍航空隊跡地で、戦後、大蔵省保管 37年10月 399,434 m <sup>2</sup> を所管換受 40年3月 小松島航空隊開隊	13,034 m <sup>2</sup> 341,296 m <sup>2</sup>
38	宇 都 宮 (38.9)	19年5月 中島飛行機宇都宮製作所の飛行場として発足 38年9月 教空団司令部、宇都宮教育航空群開隊 48年3月 部隊の下総移動のため、現在、陸自が使用	22,795 m <sup>2</sup> 807,684 m <sup>2</sup>
39	小 月 (39.7)	16年3月 旧陸軍第12飛行師団設置 25年9月 警察予備隊小月訓練所開設、その後陸自、空自が使用 40年3月 小月教育航空群開隊	29,895 m <sup>2</sup> 1,543,509 m <sup>2</sup>
43	硫 黄 島 (43.6)	旧陸、海軍が使用。戦後、米軍が使用し、43年6月に日本に返還。林野庁、大蔵省から土地建物の使用承認を得て硫黄島航空基地分遣隊開隊	182 m <sup>2</sup> 3,394,249 m <sup>2</sup>
46	厚 木 (46.7)	18年 旧厚木海軍航空隊開隊、終戦後、米軍使用 46年7月 覚書793号により使用転換、共同使用 47年3月 4空群(14空)が下総から移転	10,498 m <sup>2</sup> 2,593,925 m <sup>2</sup>

注：施設の規模は52年度末現在を示す。

## 2 庁舎，隊舎施設取得の推移

年度	施設名 (取得年月)	沿革	施設の規模
27	呉警備隊 (27.7)	27年7月 連合軍から返還 27年8月 警備隊呉地方基地隊 29年10月 呉基地警防隊として使用 32年5月 中国財務局から所管換	10,320 m <sup>2</sup> (建物) 49,448 m <sup>2</sup> (土地)
	舞鶴地方総監部第2区 (27.8)	27年8月 旧舞鶴鎮守府跡で、戦後、米軍に接收 近畿財務局から15,707 m <sup>2</sup> を一時使用して設置	311 m <sup>2</sup> 21,996 m <sup>2</sup>
28	横須賀地方総監部長浦庁舎 (28.4)	大12年4月 旧横須賀海軍軍需部開庁 戦後、大部分の旧軍施設は民間に貸与 昭28年4月 横須賀基地警防隊が使用開始	12,946 m <sup>2</sup> 34,138 m <sup>2</sup>
	舞鶴警備隊 (28.9)	28年9月 近畿財務局から12,867 m <sup>2</sup> を一時使用して、舞鶴基地警防隊設置 舞鶴警備隊、舞鶴防備隊開隊 37年3月 舞鶴防備隊、長浜地区へ移転 41年1月	1,967 m <sup>2</sup> 12,867 m <sup>2</sup>
	横須賀地方総監逸見庁舎 (28.10)	明33年5月 旧海軍港務部開庁 昭20年9月 米軍が一部接收 28年10月 総監部が田浦港町から移転 29年9月 横須賀基地警防隊が使用開始	7,210 m <sup>2</sup> 52,701 m <sup>2</sup>
29	剣ヶ崎警備所 (29.9)	34年6月 横須賀基地警防隊を横須賀警備隊に改称	192 m <sup>2</sup> 1,226 m <sup>2</sup>
	函館基地隊本部 (30.2)	28年9月 函館基地隊開隊(民間施設借上げ) 30年2月 現函館基地隊分室へ移転 43年6月 旧函館税関跡へ移転 44年1月 これ以後、逐次大蔵省から所管換	2,922 m <sup>2</sup> 6,685 m <sup>2</sup>
30	竜飛警備所 (30.4)	27年7月 海上保安庁の竜飛機雷探知所設置 30年4月 海上保安庁施設の一部を使用し竜飛警備所開設 34年3月 これ以後、購入、所管換により整備	787 m <sup>2</sup> 7,309 m <sup>2</sup>
	舞鶴地方総監部第1区 (30.6)	30年6月 旧舞鶴鎮守府の練兵場跡で、戦後、米軍により接收 米軍から返還	29,461 m <sup>2</sup> 186,668 m <sup>2</sup>
31	呉地方総監部 (31.11)	明22年7月 旧海軍呉鎮守府開庁 昭20年10月 米第10軍進駐の後、国連軍使用 31年11月 日本に返還、自衛隊管理 31年12月 呉地方総監部移転	14,698 m <sup>2</sup> 77,879 m <sup>2</sup>
	大湊地方総監部 (32.3)	28年9月 旧海軍警備府、戦後、普通財産となる。 大湊地方隊開隊、普通財産の使用承認を受く 32年3月 大蔵省から所管換	20,113 m <sup>2</sup> 236,938 m <sup>2</sup>
32	東京音楽隊 (32.5)	旧陸軍衛生材料廠跡、戦後、米軍が使用 31年4月 音楽隊が芝浦から移転 32年5月 大蔵省から所管換	1,453 m <sup>2</sup> 2,661 m <sup>2</sup>
	佐世保警備隊 (32.5)	28年9月 旧海軍佐世保防備隊施設 32年3月 佐世保地方隊開隊 総監部移転により、警備隊が跡地利用 32年5月 大蔵省から所管換	8,295 m <sup>2</sup> 49,292 m <sup>2</sup>
	淡路支所 (32.7)	32年3月 旧陸軍要塞石山砲台跡 警備所開所 32年7月 近畿財務局から所管換 50年12月 淡路支所開所	313 m <sup>2</sup> 30,069 m <sup>2</sup>

注：施設の規模は52年度末現在を示す。



年度	施設名 (取得年月)	沿 革	施 設 の 規 模
3 2	六連警備所 (32. 10)	32年10月 大蔵省から所管換 32年12月 六連警備所開所	456 m <sup>2</sup> (建物) 16, 148 m <sup>2</sup> (土地)
3 3	観音崎 警備所 (33. 9)	観音崎砲台跡地 米軍接收して使用 横須賀基地警防隊が共同使用開始 44年4月 米軍から全面返還	518 m <sup>2</sup> 64, 151 m <sup>2</sup>
3 5	舞鶴警備所 (35. )	旧舞鶴海軍警備隊博奕岬防空砲台跡地 35年 近畿財務局から187, 743 m <sup>2</sup> を一時使用して舞鶴警備所等が使用	670 m <sup>2</sup> 194, 444 m <sup>2</sup>
3 7	新潟基地 分遣隊 (37. 8)	37年8月 運輸省から敷地(9, 268 m <sup>2</sup> )所管換 39年3月 庁舎新築, 竜ヶ島から移転 47年8月 大蔵省から敷地(830 m <sup>2</sup> )所管換	590 m <sup>2</sup> 10, 295 m <sup>2</sup>
	横須賀地方 総監部 船越庁舎 (37~38)	37~38年 旧海軍工廠造兵部跡 栄光学園所有地の内海側の土地約 64, 100 m <sup>2</sup> を買収 38年8月 自衛艦隊司令部等使用開始	16, 788 m <sup>2</sup> 65, 360 m <sup>2</sup>
3 9	呉潜水艦 基地 串山地区 (39. 2)	20年 旧海軍技手養成所跡 米軍進駐後, 英連邦軍に切換え引続 き使用 39年2月 中国財務局から所管換	2, 158 m <sup>2</sup> 12, 585 m <sup>2</sup>
4 1	舞鶴防備隊 (41. 4)	30年8月 旧第3海軍火薬廠第1区跡 戦後, 米軍接收, 大蔵省財産 41年4月 米軍から返還, 陸自使用 陸自移動により, 防備隊が移転	5, 704 m <sup>2</sup> 158, 493 m <sup>2</sup>
	横須賀地方 総監部 戸台分庁舎 (41. 5)	41年5月 旧海軍横須賀鎮守府長官官舎跡 戦後, 米軍接收 43年9月 全面返還 海上自衛隊使用開始	836 m <sup>2</sup> 10, 247 m <sup>2</sup>
4 3	父島基地 分遣隊 (43. 6)	43年6月 旧陸, 海軍が使用し, 戦後, 米軍が 使用 大蔵省から土地, 建物の使用承認を 得て, 分遣隊が移転	893 m <sup>2</sup> 281, 995 m <sup>2</sup>
4 5	横須賀地方 総監部 追浜庁舎 (45. 7)	20年9月 米追浜海軍航空基地施設 45年7月 横須賀防備隊, 共同使用開始 46年2月 一部返還(土地約275, 600 m <sup>2</sup> ) 47年4月 全面返還, 海上自衛隊一部使用	11, 896 m <sup>2</sup> 42, 568 m <sup>2</sup>
	余市防備隊 (45. 11)	45年8月 防備隊専用海面の漁業権消滅補償 45年11月 運輸省, 大蔵省から逐次, 土地所管換	1, 868 m <sup>2</sup> 9, 037 m <sup>2</sup>
4 9	佐世保 防備隊 (49. 8)	29年9月 米軍接收 49年8月 米軍から返還 大蔵省, 建設省から逐次, 所管換	8, 295 m <sup>2</sup> 49, 292 m <sup>2</sup>
5 1	佐世保地方 総監部 (51. 2)	20年9月 米軍接收 32年3月 佐世保通信隊共同使用 43年3月 総監部庁舎落成 51年2月 米軍から返還	5, 941 m <sup>2</sup> 37, 977 m <sup>2</sup>



### 3 国設宿舎等建設戸数の推移

